

# 令和2年度入学生対象

別記様式1

## 主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第三類（言語文化教育系）英語文化系コース〕

プログラムの名称（和文）	中等教育科学(英語)プログラム
（英文）	Secondary School English Language Education
<p>1. 取得できる学位</p> <p>本プログラムが提供する学位は、学士（教育学）である。その取得には、本プログラムで実施される授業科目を選択履修することによって128単位を修得することを条件としている。その内訳は、教養教育科目42単位、専門基礎科目18単位、専門科目28単位、専門選択科目・自由選択科目32単位、卒業研究（論文）8単位とする。</p>	
<p>2. 概要</p> <p>中等教育科学（英語）プログラムでは、主として中学校英語科教員、高等学校英語科教員を養成する。</p> <p>本プログラムは、英語による高度なコミュニケーション能力を基盤に持ち、中学校、高等学校の英語科教育を実施するに際して必要な、英語教育学、応用言語学、英語学、英語文化学、英語文学、異文化コミュニケーションなどの人文・社会諸科学、および英語教育の基礎・基本となる教科内容についての知識、技能および態度などを体系的に身につけ、学習者の発達段階、学習段階に応じた英語授業を構想・展開したり、新たに応用・発展的な学習を組織したりできる高度な実践的教育力を有した人材を育成することを目標としている。</p> <p>本プログラムは、中等学校教員養成を主目的としたプログラムであるが、卒業生が英語教育や英語言語文化に関連した大学院に進学し研究者としての進路を目指したり、また、国内・国外で公共団体や企業、教育系産業など多様な職種においても高度専門職業人として活躍したりできるように、基礎から応用に至る知識、能力、技能を育成することにも十分配慮している。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）</p> <p>中等教育科学(英語)プログラムでは、主として中学校・高等学校の英語科教員として、21世紀にふさわしい学校教育の創造や生涯学習社会の構築のために活躍できる人材を養成します。そのため、本プログラムでは、以下の能力を身につけ、教育課程に定められた基準の単位数を修得した学生に「学士(教育学)」の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) グローバル社会にふさわしい英語教育を普及できるような高度な英語によるコミュニケーション能力を身につけている。</li> <li>(2) 英語や英語文化に関する研究を基盤として、教育内容や教材を分析し、開発することができる。</li> <li>(3) 英語教育学を原理・方法・内容等の面から専門的に探究し、英語授業を分析・構想・立案し、遂行できる。</li> <li>(4) グローバル社会にふさわしい英語教育を普及するための指導的立場において活躍する素養を身につけている。</li> </ol>	
<p>4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）</p> <p>中等教育科学(英語)プログラムでは、プログラムが掲げる到達目標を実現させるために、次の方針のもとに教育課程を編成し、実施します。</p>	

1年次には、教養教育科目や外国語科目を履修し、専門教育の基盤づくりを行うとともに、21世紀にふさわしい学校教育の創造や生涯学習社会の構築に貢献するためのグローバルな視野と能力を培います。また、専門基礎科目である「英語コミュニケーション演習Ⅰ」、「英語コミュニケーション演習Ⅱ」、「英語文学概説」を履修し、英語に関する基礎的な知識を修得します。

2年次には、教養教育科目を引き続き履修して、専門教育の基盤づくりを行うとともに、「英語学概説Ⅰ」、「英語教育学概論Ⅰ」、「英語教育学概論Ⅱ」といった専門基礎科目や「英語教材構成論」、「英語ボキャブラリー演習」、「英語発音演習」等の専門科目を履修することで、英語及び英語教育に関する基礎的な知識を広く修得するとともに分野間の理解を深めます。

3年次には、「英語学概説Ⅱ」、「コミュニケーションライティングⅠ」、「英語教育のための異文化理解」といった専門基礎科目や、「英語教育カリキュラム論」、「英語教育評価論」等の専門科目を主として履修し、専門的な知識を修得します。また、「英語教育研究法」、「英語教育研究Ⅰ」を履修し、英語教育研究に関する基礎的な知識を修得します。加えて、「中・高等学校教育実習Ⅰ」又は、4年次の「中・高等学校教育実習Ⅱ」では、英語科教員としての基礎的な教育実践力を身につけます。

4年次には、「英語教育研究Ⅱ」を履修し、自らの問題意識を卒業研究（卒業論文）へと発展させていきます。卒業研究（卒業論文）では、本プログラムを通して修得した専門的な知識、技能、能力を活用して独自のテーマに取り組み、自ら問題を発見して解決する力を身につけます。

学修の成果は、各教科の成績評価と共に本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

#### 5. 開始時期・受入条件

プログラム開始（選択）時期は、1年次である。

#### 6. 取得可能な資格

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、中学校教諭一種免許（英語）及び高等学校教諭一種免許（英語）を取得できる。さらに、特定プログラムを追加履修すると、学芸員、社会教育主事、学校図書館司書教諭などの資格も取得が可能である。

#### 7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、学部履修基準および専門教育科目履修基準を参照してください。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照してください。

#### 8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

#### 9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

##### ○目的

卒業論文は、本プログラムがめざす中等教育科学（英語）教員養成の到達点であり、さらには大学院への進学及び教育現場での実践研究への橋渡しとなる。それまでに身につけた、英語教員としての必要な基礎・専門的知識、技能、態度を活用しながら、実際の教育研究場面に使用したり、文献資料研究を行ったりしながら、自らの達成水準を見極め、さらに発展・深化を促すことを目的としている。

##### ○概要

中等教育英語の領域である英語教育学、英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解の5領域から1研究領域を選択し、卒業論文指導教員の指導の下、各自が選択する研究テーマについて研究を進め、4年次10月末までに研究題目を決定し、11月の所定期日に中間発表を実施し、11月末日に卒業論文を提出する。

##### ○配属時期と配属方法

卒業研究への導入として「英語教育研究法」を履修し、配属ゼミが決定され、卒業論文作成に取りかかる。ただし、グローバル化促進のため、留学などで「英語教育研究法」を未履修のまま卒業論文作成時を迎えた者は、特例として、「英語教育研究法」の履修と卒業論文作成を同時に行うことができる（配属ゼミは留学後に個別に決定）。この特例制度により、HUSAなどで留学をしても、単位修得状況が良好であれば4年間で卒業ができる。

#### 10. 責任体制

##### P D C A責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

本プログラムは、主として教育学部の英語文化系コースを担当するスタッフによって遂行される。その遂行上の責任は、プログラム責任者（英語文化系コース主任）にある。計画・実施、評価検討・対処は、本プログラム教員会が行う。なお、プログラム外からの評価検討・対処は、教育学部内の担当部会により進められ、プログラムの到達度が評価され、勧告が示される。

## 教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

### 第三類 英語文化系コース（中等教育科学（英語）プログラム）

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修semester(注1)													
						1年次		2年次		3年次		4年次							
						1sem	2sem	3sem	4sem	5sem	6sem	7sem	8sem						
教養教育科目	平和科目	2		2	選択必修	○													
	大学教育基礎科目																		
		大学教育入門	2	大学教育入門	2	必修	○												
		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○												
	領域科目	人文社会科学系科目群	8	(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○									
		自然科学系科目群	4		1又は2	選択必修	○	○	○	○									
	外国語科目	英語	コミュニケーション基礎	コミュニケーション基礎 I	1	必修	○												
				コミュニケーション基礎 II	1			○											
		(注2)	コミュニケーション I (注3)	コミュニケーション I A	1	選択必修	○												
				コミュニケーション I B	1			○											
				コミュニケーション II A	1				○										
				コミュニケーション II B	1				○										
					上記4科目から2科目以上														
		初修外国語 (注5)	ベーシック外国語	ベーシック外国語 I	1	選択必修	○												
				ベーシック外国語 II	1			○											
				ベーシック外国語 III	1				○										
	ベーシック外国語 IV			1				○											
	(0)		インテンシブ外国語 I	1	自由選択	○													
	(0)		インテンシブ外国語 II	1	自由選択		○												
	情報・データサイエンス科目	(0)	情報活用基礎	2	必修	○													
情報活用演習			2	自由選択		○													
健康スポーツ科目	2		1又は2	選択必修	○	○													
社会連携科目	(0)		1又は2																
基盤科目	0		1~3																
自由選択科目	10	(注6)	1~3		○	○	○	○											
計	42																		

注1：○印は標準履修semesterを表している。なお、当該semesterで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するsemesterが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」、自学自習による「オンライン英語演習 I・II・III」又は「コミュニケーション上級英語」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1semesterは「コミュニケーション I A」及び「コミュニケーション I B」が、2semesterは「コミュニケーション II A」及び「コミュニケーション II B」が指定されている。

注4：・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。  
 ・「英米文化事情概論 I」、「英米文化事情概論 II」、「英米文化事情概論 III」及び「英米文化事情概論 IV」を可能な限り履修すること。  
 ・「インテンシブ外国語」、「海外語学演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な領域科目（人文社会科学系科目群）の単位に代えることができる。

注5：ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択すること。

注6：領域科目、外国語科目、情報・データサイエンス科目、健康スポーツ科目、社会連携科目を対象とする。

## 学部履修基準

### 第三類（言語文化教育系）

#### ○ 英語文化系コース（中等教育科学（英語）プログラム）

科目区分等			要修得単位数	
教養教育	平和科目		2	
	大学教育基礎科目	大学教育入門	2	
		教養ゼミ	2	
	共通科目	領域科目	人文社会科学系科目群	8
			自然科学系科目群	4
		外国語科目	英語	6
			初修外国語	4
		情報・データサイエンス科目	2	
		健康スポーツ科目	2	
		社会連携科目	0	
基盤科目	0			
自由選択科目	10			
専門教育	専門基礎科目		18	
	専門科目		28	
	専門選択科目		32	
	自由選択科目			
	卒業研究		8	
合計			128	

## 専門教育科目履修基準

### 第三類 英語文化系コース (中等教育科学 (英語) プログラム)

履 修 内 容		要 修 得 単 位 数		開 設
専 門 基 礎 科 目	英語教育学概論Ⅰ	2	18	英語文化系コース
	英語教育学概論Ⅱ	2		
	英語学概説Ⅰ	2		
	英語学概説Ⅱ	2		
	英語文学概説	2		
	英語コミュニケーション演習Ⅰ	2		
	英語コミュニケーション演習Ⅱ	2		
	コミュニケーションライティングⅠ	2		
	英語教育のための異文化理解	2		
専 門 科 目		28		教育学部ほか
専 門 選 択 科 目		32		教育学部
自 由 選 択 科 目				教育学部ほか
卒 業 研 究		8		英語文化系コース

#### <履修上の注意>

- 『卒業研究』の8単位は、「英語教育研究Ⅰ」2単位、「英語教育研究Ⅱ」2単位、「卒業論文」4単位で充てること。
- 『自由選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、32単位まで認める。
- 教職実践演習(中・高)(8セメスター)を履修するためには、原則として7セメスター終了時点で中・高等学校教育実習Ⅰ又はⅡの単位を修得していること。ただし、教職実践演習を受講するセメスターまでに、教育実習の単位を修得できない場合は、同セメスターで教育実習の単位を修得見込みであることを条件に、履修を認める。
- 卒業研究への導入として「英語教育研究法」を履修し、配属ゼミが決定され、卒業論文作成に取りかかる。ただし、留学などで「英語教育研究法」を未履修のまま卒業論文作成時を迎えた者は、特例として、「英語教育研究法」の履修と卒業論文作成を同時に行うことができる(配属ゼミは留学後に個別に決定)。この特例制度により、HUSAなどで留学をしても、単位修得状況等が良好であれば4年間で卒業ができる。

第三類 英語文化系コース（中等教育科学（英語）プログラム）

開設単位数欄の○印数字は必修  
履修セメスター欄の○印は標準履修セメスター

区分	授業科目	開 単 位 数	履 修 セ メ ス タ ー								免許法該当科目	備 考
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ		
専 門 基 礎 科 目	英語教育学概論Ⅰ	②				○					教科の指導法（英語）	
	英語教育学概論Ⅱ	②				○					〃	
	英語学概説Ⅰ	②				○					英語学	
	英語学概説Ⅱ	②					○				〃	
	英語文学概説	②	○								英語文学	
	英語コミュニケーション演習Ⅰ	②	○								英語コミュニケーション	
	英語コミュニケーション演習Ⅱ	②		○							〃	
	コミュニケーションライティングⅠ	②					○				〃	
英語教育のための異文化理解	②						○			異文化理解		
専 門 科 目	英語教育研究法	②					○					
	英語教育方法論	2					○				教科の指導法（英語）	
	英語教育カリキュラム論	2					○				〃	
	英語教材構成論	2				○					〃	
	英語教育評価論	2						○			〃	
	英語ボキャブラリー演習	2			○						英語コミュニケーション	
	英語発音演習	2			○						〃	
	コミュニケーションライティングⅡ	2						○			〃	
	英語教師のための音声学	2		○							英語学	
	英語史	2						○			〃	文学部
	現代英語演習	2			○						〃	文学部
	英語語用法演習	2				○					〃	
	英語教育文法	2						○			〃	
	イギリス文学史講義A	2			○						英語文学	文学部
	イギリス文学史講義B	2				○					〃	文学部
	アメリカ文学史講義	2			○						〃	文学部
	英語教育と英語文学	2					○				〃	
	IS 教科書基礎研究（英語）	2			○						〃	
	英語テキスト分析	2					○				〃	
	英語圏の文化と社会	2							○		異文化理解	
英語教育文法入門	2					○						
英語圏エリアスタディⅠ	2			○								
英語圏エリアスタディⅡ	2			○								
コミュニケーション英文法	2			○								
コミュニケーションワークショップ	2			○								





中等教育科学(英語)プログラムにおける学習の成果  
評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 中等学校とその教育に関する基本を理解している。	中等学校及びその教育に関して十分な理解をもち、教育上の課題を分析し問題解決を図ることができる	中等学校及びその教育に関する基礎的理解に立ち、教育上の課題を指摘することができる	中等学校及びその教育に関する基礎的理解をもっている
	(2) 青年期の学習者たちに関する基礎を理解している。	青年期の学習者たちに関する十分な理解をもち、青年期の教育上の課題を分析し問題解決を図ることができる	青年期の学習者たちに関する基礎的理解に立ち、教育上の課題を指摘することができる	青年期の学習者たちに関する基礎的理解をもっている
	(3) 中等英語教育の理論と方法に関する基本的な知識を身につけている。	中等英語教育の理論と方法に関する十分な理解を持ち、それらを批判的に総合化することができる	中等英語教育の理論と方法に関する基本的な知識をもとに、それらの理解を総合化することができる	中等英語教育の理論と方法に関する基本的な知識をもっている
	(4) 中等英語教育の教育内容に関する基本的な知識を身につけている。	中等英語教育の教育内容に関する十分な理解をもとに、それらの理解を批判的に総合化することができる	中等英語教育の教育内容に関する基本的な知識をもとに、それらの理解を総合化することができる	中等英語教育の教育内容に関する基本的な知識をもっている
能力・技能	(1) 中等英語教育のカリキュラムを分析したりデザインしたりすることができる	中等英語教育のカリキュラムを批判的に分析・検討し、その問題点や課題を踏まえてデザインすることができる	中等英語教育のカリキュラムを分析・検討し、それを踏まえてデザインすることができる	中等英語教育カリキュラムの基礎的な理解ができる
	(2) 中等英語教育の教育内容を分析したり研究したりすることができる	中等英語教育の教育内容に関して、収集した資料や情報を使って批判的に分析し、課題を求めて研究を進めることができる	中等英語教育の教育内容を分析し、問題点を見つけて研究を進めることができる	中等英語教育の基礎的な教育内容を理解し分析できる
	(3) 中等英語教育に関連した調査・研究に関して、批判的に分析・検討することができる	中等英語教育に関連して、教育課題を資料・情報に基づいて適切に精査し、批判的に分析・検討することができる	中等英語教育に関連して、教育課題を踏まえて分析・検討することができる。	中等英語教育に関連して、調査・研究の基礎的な理解ができる
	(4) 中等英語教育における授業を分析、構想・立案することができる	中等英語教育における授業を、批判的分析に基づき、適切に構想・立案し、教室ニーズに合わせて学習指導案として作成することができる	中等英語教育における授業を、適切に分析、構想・立案し、学習指導案として作成することができる	中等英語教育における授業を学習指導案として作成することが出来る
	(5) 中等英語教育において、適切な教材や指導法を用いて円滑に授業実践ができる	中等英語教育の授業を、目標に応じて適切な教材を選択し、効果的な指導法によって円滑に実践できる	中等英語教育の授業を、教材や指導法を適切に使って実践できる	中等英語教育の授業を、それなりに実践できる
	(6) 中等英語教育において、評価計画に基づいて、生徒の学習を評価することができる	中等英語教育において、目標と評価理論を踏まえて評価計画を立て、生徒の学習を適切に評価することができる	中等英語教育において、目標に応じた評価計画に従い、生徒の学習を評価できる	中等英語教育において、評価計画を立てて生徒の学習の評価ができる
	(7) 中等英語教育において、教材を分析したり研究したりすることができる	中等英語教育の教材を、批判的に分析したり研究して、課題を見つけ、新たな教材開発の準備ができる	中等英語教育の教材を、適切に分析し、問題点などの研究を進めることができる	中等英語教育の教材の基礎的な分析や研究ができる
総合的な力	(1) 個人あるいは共同で中等英語教育に関わる研究を計画・実施し、その成果を効果的に伝えることができる(研究力・プレゼンテーション力)	個人あるいは共同で中等英語教育に関わる発展的研究を適切に計画・実施し、その成果を十分に整理して、自らの主張とともに効果的に伝えることができる	個人あるいは共同で中等英語教育に関わる応用的研究を計画・実施し、その成果を十分に伝えることができる	個人あるいは共同で中等英語教育に関わる基礎的研究を計画・実施し、その成果を伝えることができる
	(2) コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を活用することができる。(情報技術活用力)	コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を十分に活用して、必要に応じた様々な統計処理や数値表現ができる	コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を利用して、適切な統計処理や数値表現ができる	コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を利用して、基礎的な統計処理や数値表現ができる
	(3) 多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に取り組み、個人あるいはチーム・組織の一員として自らの力を十分に発揮し、課題の発見および解決に向けて協力する態度を持つ(社会協調性)	多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に積極的かつ主体的に取り組み、個人あるいはチーム・組織の一員として自らの力を十分に発揮し、課題の発見および解決に向けて協力する積極的姿勢を持つ	多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に積極的に取り組み、チーム・組織の一員として自らも努力し、課題の発見および解決に向けて協力する姿勢を持つ	多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に取り組み、チーム・組織の一員として参加し、課題の発見および解決に向けて協力する態度を持つ
	(4) 高度な英語運用能力を獲得している(英語運用力)	高いリーディング力を基礎に、文化の違いを踏まえて、流暢な対話のやり取りだけでなく、口頭や文書での発表力などにおいても、十分なコミュニケーションができ、更にその指導もできる	リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの全般にわたって、必要に応じた十分なコミュニケーションができ、それを指導にいかせる	リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングにおいて、適切なコミュニケーションができる

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムにおける教養教育は、専門教育への基盤作りの役割を担い、教育学、心理学を含む人文科学、社会科学に関する基本的かつ体系的な知識を習得するとともに、主たる外国語としての英語、および基礎的な第二外国語能力を向上させ、現代社会における教育ニーズに応えることのできる総合的な資質や能力を養成する。





中等教育科学（英語）プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	中等学校とその教育に関する基本を理解している。	(2T)平和科目(○)			特別活動指導法(△) (3T)教育と社会・制度(△)	教育課程論(△)	(4T)教育方法・技術論(△)		
	青年期の学習者たちに関する基礎を理解している。				(3T)生徒・進路指導論(△)		(4T)教育相談(△)		
	中等英語教育の理論と方法に関する基本的な知識を身につけている。	(1T)大学教育入門(◎)			(3T)英語教育学概論Ⅰ(◎) (4T)英語教育学概論Ⅱ(◎)				
	中等英語教育の教育内容に関する基本的な知識を身につけている。	(2T)英語文学概説(◎)		(2T)IS教科書基礎研究(英語)(△) (2T)現代英語演習(△) (2T)イギリス文学史講義A(△) (1T)アメリカ文学史講義(△)	(3T)英語学概説Ⅰ(◎) (3T)イギリス文学史講義B(△)	(2T)英語学概説Ⅱ(◎) (2T)英語教育文法入門(△)	(3T)英語教師のための異文化理解(◎) (3T)英語史(△) (4T)英語教育文法(△) (4T)英語教育史(△)	(2T)英語圏の文化と社会(△)	
能力・技能	中等英語教育のカリキュラムを分析したりデザインしたりすることができる					(1T)英語教育カリキュラム論(△)			
	中等英語教育の教育内容を分析したり研究したりすることができる		(4T)英語教師のための音声学(△)	(2T)英語圏エリアスタディⅠ(△) (2T)英語圏エリアスタディⅡ(△) (2T)コミュニカティブ英文法(△)			(4T)英語教育文法(△)		
	中等英語教育に関連した調査・研究に関して、批判的に分析・検討することができる	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)		(2T)英語教育研究法(◎)		
	中等英語教育における授業を分析、構想・立案することができる								
	中等英語教育において、適切な教材や指導法を用いて円滑に授業実践ができる						(2T)英語教育方法論(△)		
	中等英語教育において、評価計画に基づいて、生徒の学習を評価することができる							(3T)英語教育評価論(△)	
	中等英語教育において、教材を分析したり研究したりすることができる					(3T)英語教材構成論(△)	(1T)英語教育と英語文学(△) (2T)英語テキスト分析(△)		

学習の成果 評価項目		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
総合的な力	個人あるいは共同で中等英語教育に関わる研究を計画・実施し、その成果を効果的に伝えることができる(研究力・プレゼンテーション力)	(1T)教養ゼミ(◎)					英語教育研究Ⅰ(◎)	英語教育研究Ⅱ(◎)	卒業論文(◎)
	コンピュータなどの情報コミュニケーション技術を活用することができる。(情報技術活用力)	(1T)情報活用基礎(◎)							
	多くの人々と共同で中等英語教育に関わる諸課題に取り組み、個人あるいはチーム・組織の一員として自らの力を十分に発揮し、課題の発見および解決に向けて協力する態度を持つ(社会協調性)	健康スポーツ科目(○)	健康スポーツ科目(○)				(2T)英語教育研究法(◎)		
	高度な英語運用能力を獲得している(英語運用力)	(1T)英語コミュニケーション演習Ⅰ(◎)	(3T)英語コミュニケーション演習Ⅱ(◎)	(1T)英語ボキャブラリー演習(△)	(4T)英語語用法演習(△)	(1T)コミュニケーションライティングⅠ(◎)	(3T)コミュニケーションライティングⅡ(△)		
	外国語科目(○)	外国語科目(○)	(2T)英語発音演習(△)						
			(2T)コミュニケーションワークショップ(△)						
	(例)教養科目		専門基礎	専門科目		卒業論文	(◎)必修科目	(○)選択必修科目	(△)選択科目

※ターム科目の区別は、科目名の前に記載する。

第1ターム:1T 第2ターム:2T 第3ターム:3T 第4ターム:4T

(例)第1ターム開講の科目 → (1T)コミュニケーション1

## 中等教育科学(英語)プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
小野 章	教授	7063	教育学研究科 C棟 618	aono@
松浦 伸和	教授	6795	教育学研究科 A棟 209	nobukazu@
檜葉みつ子	准教授	6791	教育学研究科 A棟 211	mkashiba@
西原 貴之	准教授	7061	教育学研究科 C棟 616	ntakayk@
P. ハウエル	准教授	7059	教育学研究科 C棟 614	howell@
ラッセル・サーワー ー・カビール	助教		教育学研究科	
吉中 孝志	教授	6681	文学研究科 A362	ytakashi@
大地 真介	准教授	6885	文学研究科 A365	ohchi@
大野 英志	准教授	6678	文学研究科 A361	hideshi-ohno@
松本 舞	助教	6676	文学研究科 A465	mmazmoto@

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424- (内線番号4桁) とすれば、直通電話となります。

(霞: 082-257- (内線番号4桁))

(東千田: 082-542- (内線番号4桁))